

授業科目名	音楽療法総論Ⅱ	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	長江 朱夏	単位	2	年次	1

＝授業のテーマ及び到達目標＝

- 音楽療法の入門として、成人と高齢者を中心とした様々な対象者との取り組みを学ぶ
- 音楽が人々の心に働きかけること、機能回復に役立てられる可能性について学ぶ
- 非言語コミュニケーションのワークショップを通し、体験的に障害者理解を深める

＝履修の条件と学習の方法＝

音楽療法総論Ⅰを修了していること。

講義形式を基本とした授業内容だが、体験ワーク（音楽体験やロールプレイ）やグループディスカッションも含まれる為、意欲的に参加できること。

＝授業の概要＝

1年春学期の音楽療法総論Ⅰに続く基礎教養科目。日本音楽療法学会が認定する音楽療法士（補）受験資格を取得するために必要となる科目。

音楽の持つユニークな力を医療や福祉の現場で活かし、人々の健康を支援する取り組みが音楽療法である。本授業では、音楽療法という分野の全体像を、歴史だけでなく近代の音楽療法の取り組みから学んでいく。総論ⅠとⅡの内容は連動しており、2つの科目を通し音楽療法コース入門の位置づけとなる。身体、精神、発達など様々な障害をもつ対象者のニーズや特性を理解する基礎知識を養うことは勿論、音楽療法がどのように専門家として関わり、音楽固有の力を発揮していくのかを、オーディオや映像の臨床例を交えながら理解を深めていく。

＝授業計画＝

なお、講義内容や進行順序は場合により部分的に変更することがある。

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義内容と目標）の確認。
- 2回 リハビリとしての音楽療法 こども
- 3回 リハビリとしての音楽療法 青年
- 4回 リハビリとしての音楽療法 脳卒中、言語機能の回復
- 5回 高齢者との音楽療法、認知症
- 6回 高齢者との音楽療法、リハビリ
- 7回 高齢者と音楽について考える
- 8回 ワークショップ
- 9回 終末期医療
- 10回 精神疾患を理解する①
- 11回 精神疾患を理解する②
- 12回 ワークショップ
- 13回 コミュニティーと音楽、音楽療法
- 14回 まとめ
- 15回 期末テスト

=テキスト（必携）=

書籍名：音楽療法入門 I

著者名：デイビス 他（著）栗林文雄（訳）

出版社：一麦出版社

書籍名：音楽療法入門 II

著者名：デイビス 他（著）栗林文雄（訳）

出版社：一麦出版社

書籍名：音楽療法入門 III

著者名：デイビス 他（著）廣川恵理（訳）

出版社：一麦出版社

その他、必要に応じて適宜授業にて配布する。

=参考書・参考資料（必携）=

授業内で適宜紹介していく

=成績評価の方法と評価の基準=

出席点は、出席 2 点、欠席 0 点とする。遅刻・早退は各 30 分以内とし、1 回につき－0.5 点とする。これらを算出し総合成績の 30%に反映する。

提出物（総合点の 30%として反映）

- ・ 課題（2 題）内容と提出期限は授業内にて案内。提出期限厳守。各 10 点
 - ・ レポート（2 回）内容と提出期限は授業内にて案内。提出期限厳守。各 5 点
- ※ 提出物は期限から遅れると 1 日につき－1 点とする。

期末テストの成績は総合点の 40%に反映する。

=その他=